

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：永島]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

平成24年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号

平成24年5月21日

島根県

1 病害虫名 : ベと病 *Plasmopara obducens*

2 発生物種 : インパチェンス

3 発生確認場所 : 出雲市

4 発生確認の経緯

- 1) 平成24年4月上旬、セル苗に播種したインパチェンス（品種：インプレッサ）において、葉裏に白色のかびを生じ黄化症状を示す苗が多数認められた（写真1）。罹病株は全て埋没等の処分をし、現在、発生は確認されていない。
- 2) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構花き研究所に診断を依頼したところ、*Plasmopara obducens*によるべと病であることが判明した。
- 3) 本病は、平成22年6月に我が国で初めて確認されたが、島根県内での発生確認は初めてである。

5 病徴及び生態

- 1) 葉の裏面に白色のかびを生じる（写真2）。
- 2) 病勢が進展すると葉裏全面がかびで覆われ白色を呈し、しばしば葉の表側が内側に巻き込む（写真2）。発病葉に触れると白い粉状のかびが飛散するのが肉眼でもはっきり確認できる。ほぼすべての葉が発病し、その後、多くは落葉、株が枯死するなど重篤な被害をもたらす。
- 3) 病原菌は葉裏の気孔から分生子柄を伸長し、樹状に分岐後、その先端部に卵形の分生子を生じる（写真3）。分生子の大きさは $12\sim 19.5\times 10.8\sim 15\mu\text{m}$ （平均 $16.1\times 12.9\mu\text{m}$ ）であった。この分生子により空気伝染する。

6 被害の特徴

葉裏に白色粉状のかびを密生し、葉が黄化する。

7 寄主植物

インパチェンス、ニューギニア・インパチェンスを含むツリフネソウ属の植物とされる。

8 防除対策

- 1) 発病株は確認し次第、圃場外に持ち出し、穴を掘って埋め込む。
- 2) 葉が濡れていると感染を助長するため、頭上灌水は避ける。
- 3) 本病を対象として農薬登録されている薬剤はない。



写真1 ベと病発生状況（黄化した葉の裏に白色のかびを生じている）



写真2 葉裏に形成された白色のかび

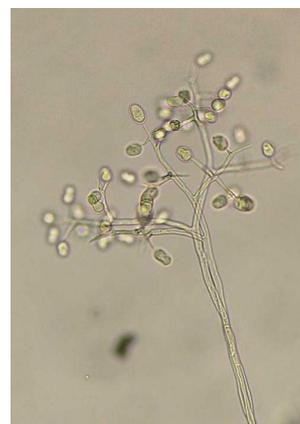


写真3 病原菌